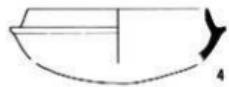
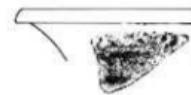


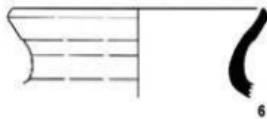
3



4



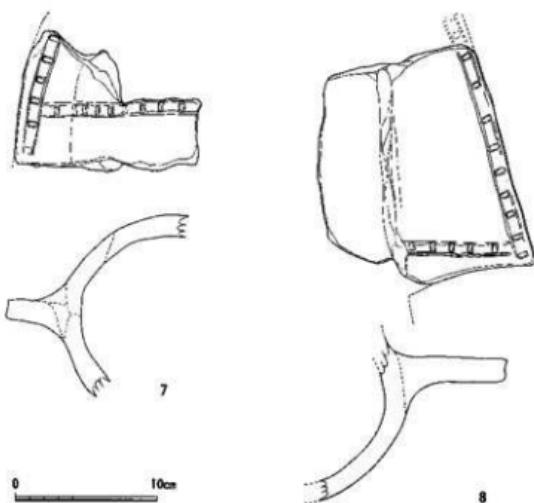
5



6



第8図 須恵器(2)



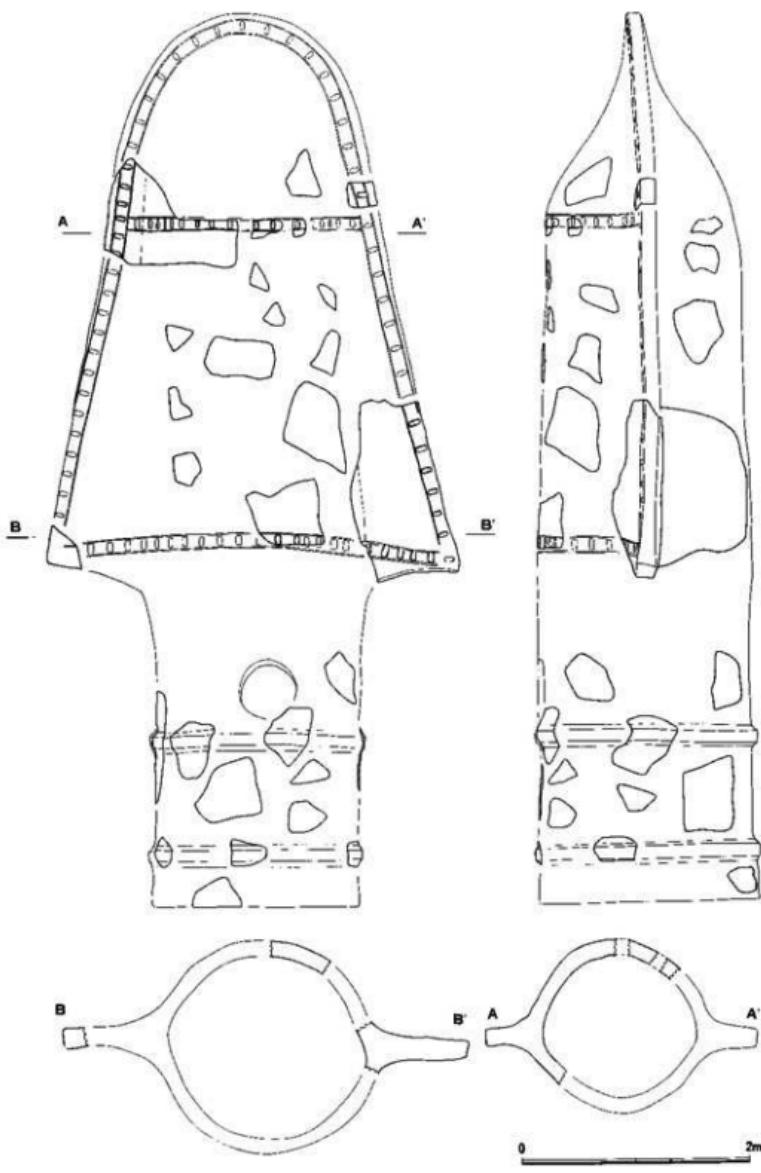
第9図 盾形埴輪①

は同心円タタキのち半スリケシがそれぞれ施されている。5は外面に波状文が施され、内面には自然釉がみられる。4は口径12.5cmの杯身で、やや直立気味にのびる口縁部に若干上方にのびる受部を持つ。

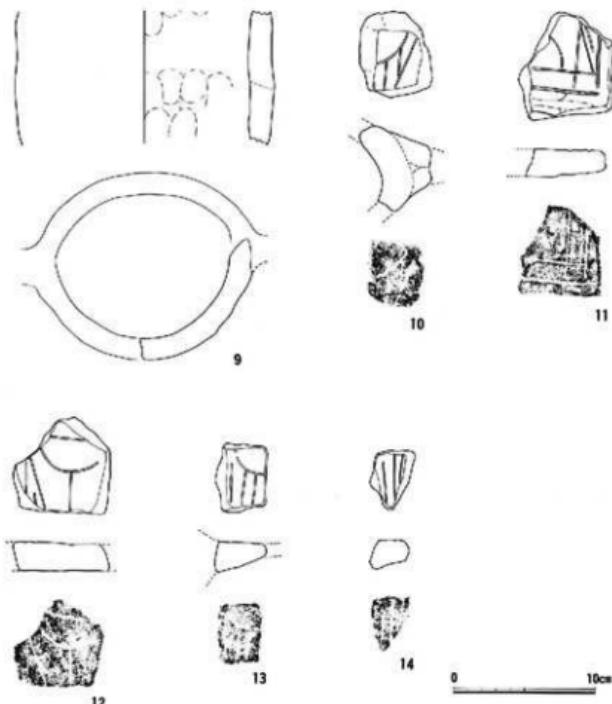
形象埴輪には、盾形埴輪と家形埴輪がある。盾形埴輪は2個体あり、そのうち1個体は復元することができた。第11図は盾形埴輪①片である。いずれも円筒部に鱗状の盾面のついたもので、盾面には区画のためヘラガキによる2条の平行沈線が施され、その沈線の間に3×9mm程度の方形の刺突文が施されている。内面はナデ調整されている。第12図はその復元図である。高さ39.0cmで、底径18.1cmの円筒部に、高さ49.9cm、幅36.5cmの鱗状の盾面を貼り付け、頂部が丸い三角形状を呈する。盾面の縁に沿って、またその間を区画するように2条のヘラガキ沈線と方形刺突文が巡らされている。円筒部には浅いM字形の表裏両面に穿たれている。

第13図は、盾形埴輪②片である。9は円筒部で、外面がナデによって、また内面はユビオサエによって整形されている。この部分の径は15.6cmと推定される。10は盾面と円筒部との接合部分で、その断面より盾面の整形にあたっては表裏両面より粘土を接合した様子が窺える。11～14は盾面である。いずれも直弧文と思われるヘラガキの文様がみられる。

第12・13図は家形埴輪片である。15～18は屋根部分の破片である。15は屋根頂部の一部と



第10図 盾形埴輪①復元図

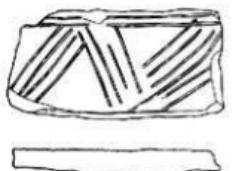


第11図 盾形埴輪②

考えられる。長辺側は、幅約3mmのヘラ状工具による2条の平行線刻を1つの単位として文様が施されている。下辺、次いで側辺、そして上辺の順に線刻を施し、その囲まれた空間をさらに縦方向の線刻で区画する。その中に斜め方向に3単位6条の線刻を交互に施し櫛衫状の文様を構成している。短辺側には剥離痕があり文様はみられないが、その痕跡から剥離したのは構造物ではなく、表面の文様程度であったと考えられる。内面には約1.2cm間隔で粘土が積み上げられている様子が明瞭に観察できる。16も屋根の一部と考えられる。斜め方向のハケで1次調整を行い、その後ヘラ状工具で4～6条の線を施している。17は軒の基部と壁の上部と考えられる。斜め方向のハケで1次調整を行い、各部接合の際に接合的に横方向のナデを施している。18は軒の先端と考えられる。19～23は壁部分の破片と考えられる。19は壁の隅にあたると考えられる破片である。弧状を呈する側面は円形の透かし孔の一部とみられる。20、21は直線状を呈する側面が生きており、方形の透かし孔があったことが窺える。



15



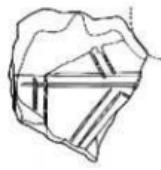
17



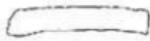
16



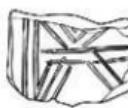
18



19



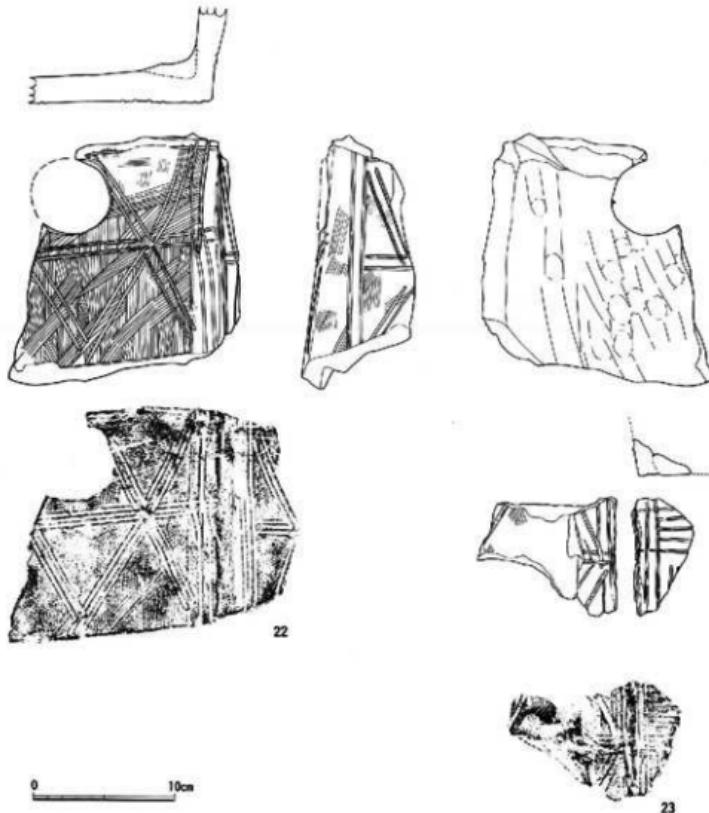
20



21



第12図 家形埴輪(1)



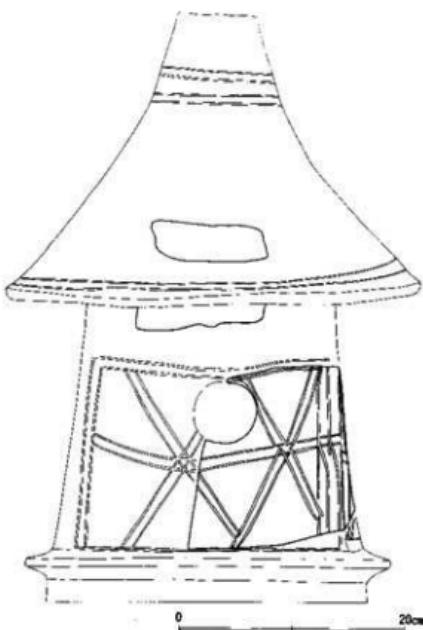
第13図 家形埴輪(2)

22は上部に円形のスカシを持つ。まずは全面に縦方向のハケを施し、その後やや粗く斜め方向のハケを施している。その後2条の平行な線刻が、①壁面中位に横方向、②右上方から左下方へ、③左上方から右上方へ、④縦に縦方向に、という順に施されている。総じて線刻は、同一の原体によって2条同時に施されたものと1条ずつ施されたものという2種があるとみられる。また内面はユビナデによって仕上げられている。第14、15図は家形埴輪復元図である。高さ51.9cm、棟長21.0cm、平幅51.0cm、妻幅24.2cmの寄棟造である。屋根の文様は主として2条のヘラガキの線刻によって区画される。流は3段に分けられ、妻は無文である。流上段は1辺5cmの程度の方形に区画され、絞杉状の文様が、中段には4条ないし6条

の線刻を交互に斜めに施されている。下段は網を模した文様が施されていたものと推定される。壁は平に2箇所方形の透かし孔があり、妻には直径5.5cmの円形の透かし孔があり、その間の壁を2条の平行沈線で区画した中に「×」状の文様を施している。壁下部には鶴状に張りだした縁台があるが、屋台脚の透かし孔の有無は不明である。

円筒埴輪には、朝顔形埴輪と円筒埴輪がある(第16~20図)。24・25は朝顔形埴輪である。24は口縁部より体部上部まで残存している。外面は左上がりのナデ調整が施され、台形の突帯を持ち、突帯付近は横ナデが施されている。内面は縦ナデが施され、粘土接合部にはユビオサエがみられる。また口縁端部付近は横ナデが施されている。25は、頭部を中心に体部が残存している。外面は左上がりのハケのうち突帯付近には横ナデが施され、内面は粘土接合部付近にユビオサエがみられる。突帯はM字形である。24、25ともに体部第2段に円形の透かし孔を有する(第16図)。

26~30は円筒埴輪である。26は口縁部より下位3段が残存している。外面は左上がりのハケが施され、口縁部付近や突帯付近は横ナデが施されている。突帯はM字形である。内面は下段に右上がりのユビナデが施されているが、そのほかの粘土接合部はユビオサエがみられる。27は口縁部より下位2段が残存している。外面は左上がりのハケが施され、口縁部付近や突帯付近は横ナデが施されている。突帯はM字形である。内面は粘土接合部にユビオサエがみられる。26、27は第2段に円形の透かし孔を有する。28は口縁部より下位2段目の上半が残存している。外面の調整は磨滅により不明であるが、内面にはユビオサエがみられる。やや浅いM字形の突帯を有する。29、30は底部付近で、外面は左上がりのハケによって1次調整が行われ、突帯は断続ナデ技法による。内面は粘土接合部に

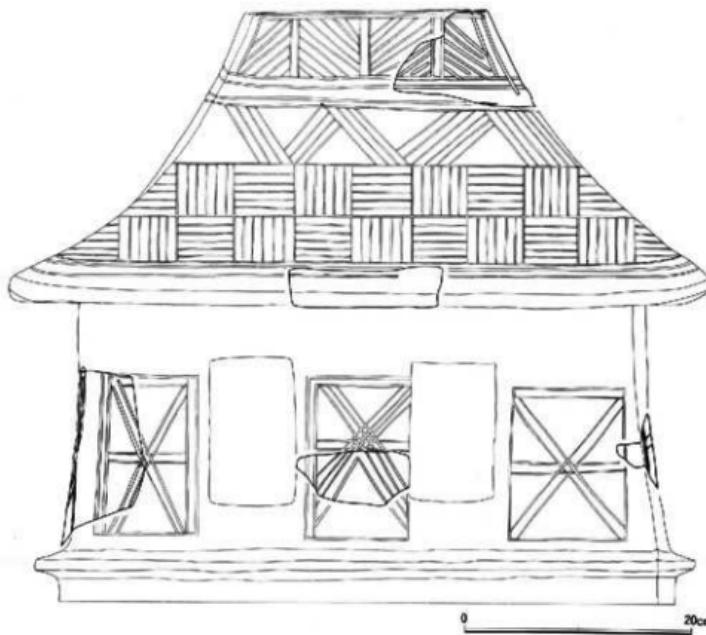


第14図 家形埴輪復元(1)

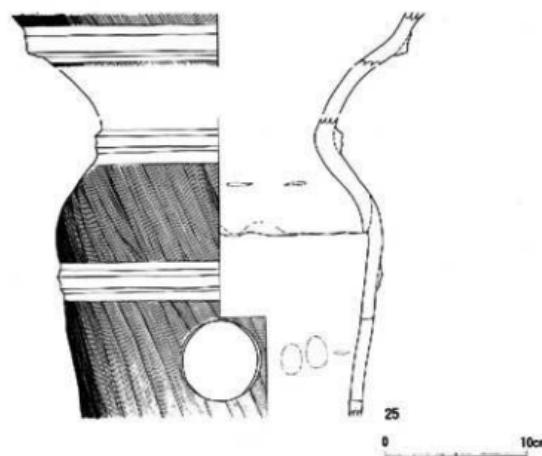
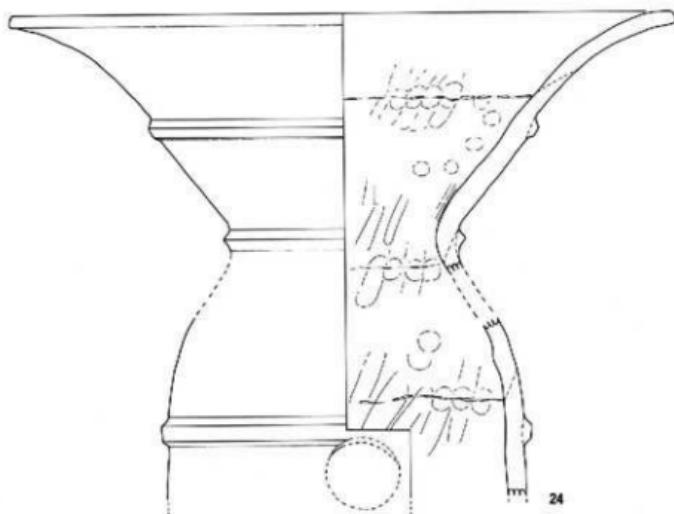
ニビオサエがみられる（第17図）。

31～38は朝顔形埴片である。31～33は口縁部、34～37は円筒部、38は底部である。これらは胎土、色調などから3種に分けられる。31、33～36、38は橙色で胎土が粗い。特に33には左上がりのハケがみられ、突帯は台形を呈する。32は浅黄橙色で胎土が密である。37は淡黄色胎土が密である。突帯はM字形を呈する。

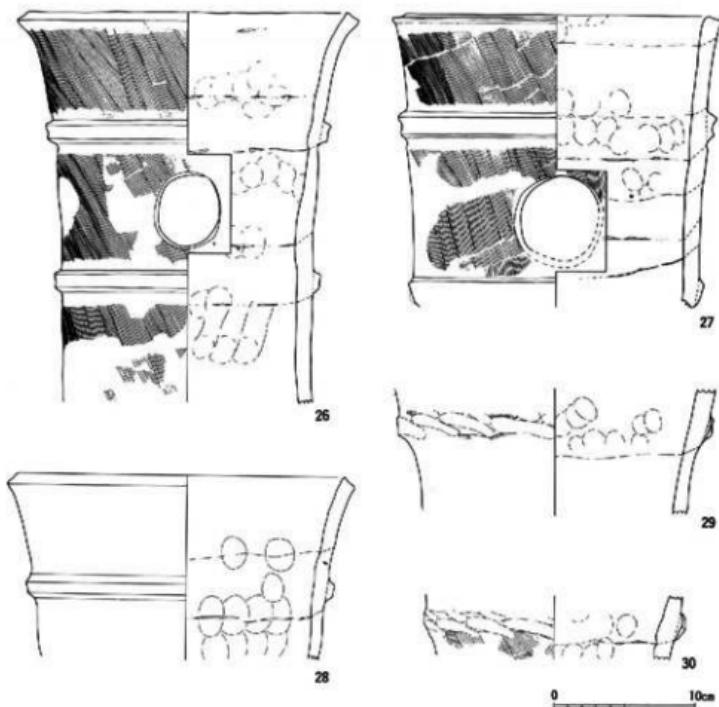
39～79は円筒埴輪片である。色調、胎土、突帯等で分類すると種類が多く、本来置かれていた個体数が多かったことが窺える。ここでは代表的なものをあげておくことにする。39～43は口縁部、44～74は体部、75～79は底部である。突帯がM字形と呈するものと台形を呈するものがある。調整は磨滅し不明瞭なものが多いが、49、60、63、65、69、72～74、76、78、には左上がりのハケが、75には縦方向のハケがみられる。また40、72～74、76、78は須恵質である。突帯はヨコナデによって整形されたものが多いが、75～78のように断続ナデ技法によって整形されているものもみられる（第18～20図）。



第15図 家形埴輪復元図(2)



第16図 朝顔形埴輪



第17図 円筒埴輪

②SK01

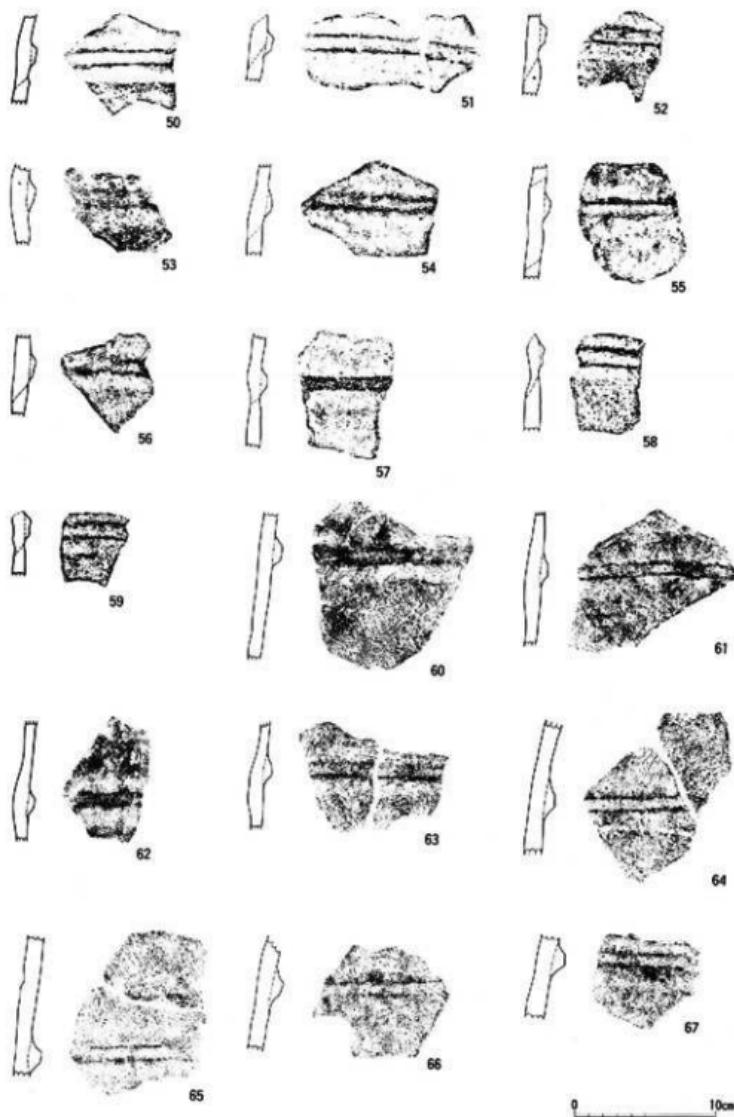
東西約90cm南北約80cm、残存する深さ約10cmの方形の土坑で、東辺には直径約30cm、残存する深さ約20cmのピットが切り合っている（第21図）。遺物は瓦器焼が1点、土坑中央部の底面より約20cmの高さより出土した。瓦器焼は、口径14.4cm、器高3.8cmの灰色で外面にはニビオサエがみられるが、内面の調整は不明瞭であり、歪みも大きい（第22図）。

③遺構に伴わない遺物

81～83は皿である。いずれも口縁部は外反気味に立ち上がるが、83は端部付近にナデによる凹線が巡る。84・85は杯である。口縁部の形態は、84が外反気味に立ち上がるのに対し、85は内寄気味に立ち上がり、端部付近でやや外反する。86は高杯である。非常に薄い造りになっており、他の土器に比べてやや胎土が粗い。87は盤である。口縁部付近で小さく内寄す



第18図 朝顔形埴輪片・円筒埴輪片(1)



第19図 円筒埴輪片(2)



第20図 円筒埴輪片(3)

る。81～87についてはいずれも磨滅しており、底部の調整などは不明瞭である。88～90は鋸で、88には口縁部外面にタテハケが、内面にヨコハケがみられる。またいずれも体部内面はヨコハケが施されている。91は釜で、体部外面にユビオサエがみられる(第23図)。

92は管玉である。全長30.3mm、下面径11.2mm、7.58g、みるいろの碧玉で、片面穿孔されている。底部には穿孔に伴う欠損痕がみられるが研磨してある。外面には欠損している部分が多くみられ、本来の位置より激しく移動している様子が窺える。

93は石鏡である。最大幅2.3cm、最大厚0.6cm、重量3.96gのサスカイト製で、横長剝片を素材として用いている。打点側より粗雑な調整剝離を施し、器形を整え、横断面形は偏平な三角形を呈する。器体の周縁は押圧剝離により丁寧に仕上げられている。先端部を欠いている(第24図)。

(4) まとめ

本遺跡は、存続時期の異なる2条の自然流路SR 01、SR 02と、その周辺に構築された2つの遺構からなる。ここでそれぞれの遺構の構築時期や存続期間を検討しつつ、遺跡としての性格を考えたい。

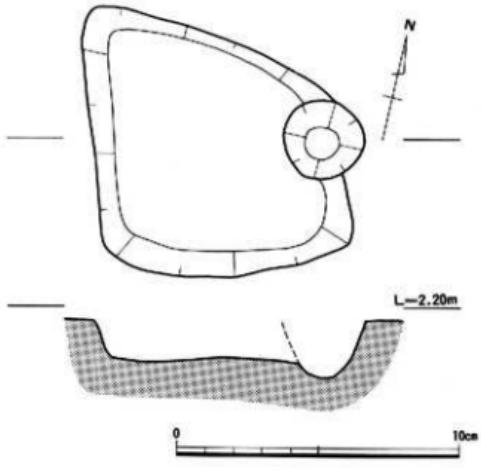
まずSX 01については、須恵器台が陶邑編年⁽¹⁾のTK 10段階にあたると考えられる。また埴輪についても円筒埴輪の形態や最下段の突帯に断続ナデ技法が用いられていることから川西編年⁽²⁾のV期にあたると考えられ、須恵器の年代観とも矛盾しない。さらにそれより新しい時期の遺物も古い時期の遺物も出土していることを考慮すると、ほぼ6世紀中頃に構築され、利用された期間は極めて短かったものと考えられる。SR 02については、TK 10段階にあたるとみられる杯身が出土していることやSX 01と同一個体の遺物片が出土していることから、SX 01が構築された時に存在したものと考えてよい。しかしSR 02が埋没した上にSK 01が構築されていること、埋土上層において、83や87のような9世紀末から10世紀前半と考えられる遺物が出土していることから、この段階ではすでに埋没していたものと考えられる。SK 01については、瓦器碗がN-1段階と考えられるため⁽³⁾、13世紀中葉に構築されたものと考えられる。SR 01についても、88や91の土器によって同様の時期が考えられる。以上より各遺構の構築については、

SX 01の構築→SR 02埋没→SK 01の構築→SR 01埋没

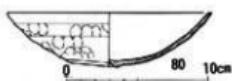
SR 02

SR 01

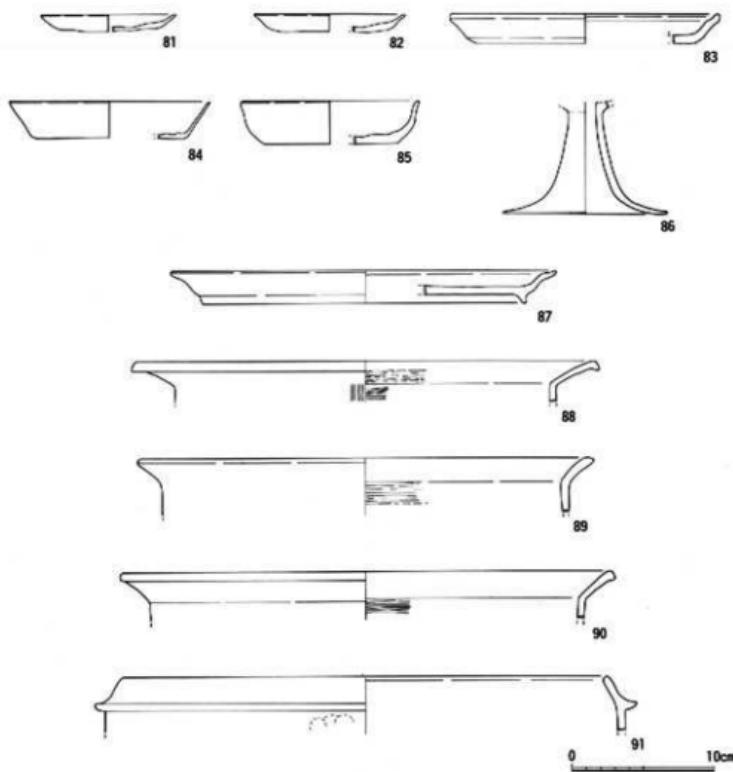
という順序が考えられる。本遺跡の立地する阿瀬山脈の南麓地域は、もともと降雨量が少ないことから降雨時にみに流れる川が多く、近年までよく氾濫を起こしていた。前述のSR 01、02という2条の流路についても、常時水の流れのみられるような川ではなく、降水時のみ流れがあり、氾濫することも多い流路であったことが想像される。



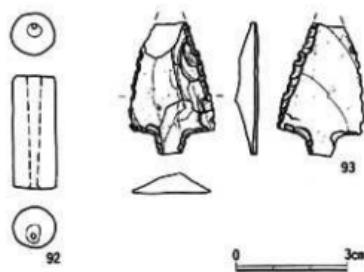
第21図 SK 01 実測図



第22図 SK 01 出土遺物



第23図 包含層出土遺物(1)



第24図 包含層出土遺物(2)

次にSX01の性格については、構築されている地点が谷部にあたり、古墳の立地するような場所でもない。また本遺跡の両側の尾根上に立地する古墳には6世紀中頃と考えられる時期のものは確認されておらず、埴輪片も採集されていないこと、本遺跡中においてもSX01の構築されているⅡ区より上流から埴輪やそれと同時期の遺物がほとんど確認されていないことから外部からの流入とも考えにくい。このように古墳に伴わない形象埴輪の出土例としては、石見型の祭祀遺跡が知られる。石見型の祭祀遺跡は、5世紀後半から6世紀中頃にかけての時期にみられ、低湿地で河川に沿った箇所が多く、水辺の祭祀と考えられている。SX01は、形象埴輪を持つことや周溝らしき溝をもつことはこの石見型祭祀遺跡⁽⁵⁾と共通するが、その一方石見型祭祀遺跡によくみられる木製品や人物埴輪などをもたず、また立地も當時流れがみられるような河川のはとりでもない。

また埴輪を用いた祭祀遺跡として徳島県では前山遺跡が知られる。前山遺跡は丘陵に立地し、周辺の古墳群域の中に形成された祭祀遺跡と考えられている⁽⁶⁾。本遺跡の東西両側尾根にも古墳群が形成されているが、東側の尾根に立地する蓮華谷古墳群（Ⅰ）においては4世紀中頃～6世紀中頃までの間古墳の築造が行われておらず、また西側の蓮華谷古墳群（Ⅰ）においてもSX01の形成された時期の遺構は確認されていないことから周辺の古墳群との関係は薄いと考えられる。SX01は立地や遺構の形状から何らかの祭祀が行われた可能性も考えられるが祭祀具が確認されていない現段階での性格付けは困難と思われる⁽⁷⁾。

最後に断続ナデ技法を用いた円筒埴輪最下段突帯の整形は、徳島県では他に板野町尊崇山古墳群と小松島市前山遺跡について3例目となる。北部九州から瀬戸内海沿岸にかけての地域でみられるこの技法が本遺跡からも出土したことは、当時の交易圏について考える際の興味深い資料の一つとなるものである。

- (1) 蓮華谷古墳群（Ⅲ）第3図参照。
- (2) 田辺昭三『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ 1986
『須恵器大成』角川書店 1981
- (3) 川西宏幸『円筒埴輪総論』『考古学雑誌』64-2 1978
- (4) 尾上 実『南河内の瓦器碗』『古文化論叢』1983
- (5) 森 浩一『形象埴輪の出土状態の再検討』『古代学研究』29 1961
『石見遺跡資料』大和考古資料目録第15集 奈良県立橿原考古学研究所附属図書館 1988
- (6) 菅原康夫『日本の古代遺跡 37 篠島』保育社 1988
- (7) この点について藤川智之氏は、円筒埴輪に多種類の胎土・施成がみられることからある意図をもつ

て複数の埴輪生産地から集められた祭祀の場ではないかと考えている。

藤川智之「徳島県の埴輪に関する一、二の問題」『徳島県埋蔵文化財センター年報』Vol.2

1991

遺物觀察表

第1表 須恵器観察表

| 番号 | 器種 | 地點・層位 | 法量 | 形態の特徴 | 技法の特徴 | 備考 |
|----|---------|--------|--|--|---|--|
| 1 | 器台 | SX 01 | 口径 35.4 厚さ 39.8 直径 28.8 残存高 8.5 | 鉢部、口縁部は外反気味に外上方への び、外縁は底面附近で5分へ下る段を有する。体部上段に2条の凸線、中段 に1条の沈線を有する。 脚部 基盤に凸起と凹方に円形の穿孔 を有し、裏面にかけて4万3段の三角 形のスカンが施されている。穿孔とス カシの間に2条のスカシとスカシの 間には3条のナデによる凹線がある。 | 鉢部外表面下15mm/20mmの波状、下 半部子タキ。内底部下15mm/20mmの波 状紋が施されている。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 内面 青灰色 外面 青灰色 |
| 2 | 甕 | SX 01 | 残存高 51.2 直径 47.8 | 口縁部は直立気味に立ち上がる。 内底部は直立気味に立ち上がる。体部 やや直線気味に下へ中央部より 膨らむ。底部を欠く。 | 体部外表面子タキ。のち回転カキ メ。体部内面同心円タキ。のち半ス リケン。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 内面 明青灰色 外面 初青灰色 断面 青灰色 |
| 3 | 燒 | SX 01 | 口径 12.5 受部径 15.2 残存高 3.8 | 口縁部は直立気味に立ち上がる。体部 やや直線気味に下へ中央部より 膨らむ。底部を欠く。 | 口縁部内外面ヨコナギ。体部外表面 子タキ。のち回転カキメ。体部内 面同心円文タキ。のち半スリケン。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 内面 青灰色 外面 青灰色 |
| 4 | 圓杯 舟 | I区流域 | 口径 24.1 受部径 17.6 残存高 3.8 | 口縁部は小さく内傾してのち直立して 立ち上がり、腹部はやや斜め。 受部はやや上方にのり、腹部はやや 斜め。 内面には自然彫みられる。 | 回転ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 内面 明青灰色 外面 初青灰色 断面 紫灰色 |
| 5 | 甕 | 試掘・レンチ | 口径 24.1 残存高 3.8 | 口縁部は外反気味に上り、外縁 は下方へ傾曲する。腹部はやや斜め。 内面には自然彫みられる。 | 回転ナデ。 口縁部外縁に對一痕跡による2角の波 状紋を2段落させている。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 内面 紫灰色 外面 黑褐色 断面 黑褐色 |
| 6 | 甕 | II区流域 | 口径 17.6 残存高 6.2 | 口縁部は外反気味に立ち上がり、外縁 に小さな段を有したのち、内窓気味に 腹部に至る。腹部はやや斜め。口縁部 基盤に1条の凹線がある。 | 回転ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 内面 青灰色 外面 青灰色 断面 青灰色 |

単位はcm

第2表 形象埴輪観察表(I)

| 番号 | 種類 | 部位 | 出土地点 | 厚 | 形態・技法の特徴 | 備考 |
|----|----|--------|-------|------------------------------|---|-------------------------|
| 7 | 舟 | 體 | SX 01 | 1.3 ～ 1.5 内面 ナデ。 | 外面 ハラ括きによる2条の沈線を施した後、その間に方形の刺突 文を施す。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄色 |
| 8 | 船 | 體 | SX 01 | 1.3 ～ 1.7 内面 ナデ。 | 外面 ハラ括きによる2条の沈線を施した後、その間に方形の刺突 文を施す。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄色 |
| 9 | 唐 | 体 器 | SX 01 | 1.7 内面 ルビオサ。 | 外面 ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄色 |

単位はcm

第3表 形象埴輪観察表(2)

| 番号 | 種類 | 部位 | 出土地点 | 器厚 | 形態・技法の特徴 | 備考 |
|----|----|----|--------|-----------------|---|-----------------------------|
| 10 | 馬 | 體 | SX01 | 1.8 | 外面 タテナデ。前面に直弧文と思われるヘラ括きの文様。 内面 タテナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄色 |
| 11 | 馬 | 體 | SX01 | 1.8 | 前面 ヨコナデ。直弧文と思われるヘラ括きの文様。 裏面 タテナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 12 | 馬 | 體 | SX01 | 2.0 | 前面 直弧文と思われるヘラ括きの文様。 裏面 タテナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 13 | 馬 | 體 | ■区 | 1.1 ～ 2.1 | 前面 直弧文と思われるヘラ括きの文様。 裏面 タテナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄色 |
| 14 | 馬 | 體 | SX01 | 1.7 | 前面 直弧文と思われるヘラ括きの文様。 裏面 ユビオサニまたはタテナデ。 | 胎土 やや粗 焼成 やや軟質 色調 淡黄色 |
| 15 | 家 | 屋根 | 試掘トレンチ | 1.7 | 外面 ヘラ状工具による縫剝。壁側面に剥離痕あり。 内面 ナデ。 | 胎土 やや粗 焼成 良好 色調 赤褐色 |
| 16 | 家 | 屋根 | SX01 | 1.6 | 外面 略め方向のハケ。のちヘラ状工具による縫剝。 内面 ナギ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡褐色 |
| 17 | 家 | 軒 | ■区 | 2.1 | 外面 裏と屋根の接合部にヨコナデ。壁に斜め方向のハケ。 内面 ナデ。 | 胎土 やや粗 焼成 良好 色調 淡褐色 |
| 18 | 家 | 軒先 | SX01 | 1.9 | 外面 ヘラ状工具による縫剝。 内面 ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 棕色 |
| 19 | 家 | 壁 | ■区 | 2.0 | 外面 ヘラ状工具による縫剝。 内面 ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 棕色 |
| 20 | 家 | 壁 | SX01 | 1.6 | 外面 ヘラ状工具による縫剝。 内面 ナデ。 | 胎土 やや密 焼成 良好 色調 棕色 |
| 21 | 家 | 壁 | SX01 | 1.7 | 外面 ヘラ状工具による縫剝。 内面 ナギ。 | 胎土 やや密 焼成 良好 色調 棕色 |
| 22 | 家 | 壁 | ■区洗塗 | 1.9 | 外面 タテハケのち斜めハケ。ヘラ状工具による縫剝。 内面 斜め方向の折ナギ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 棕色 |
| 23 | 家 | 壁 | ■区洗塗 | 1.5 | 外面 略め方向のハケ。ヘラ状工具による縫剝。 内面 ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 棕色 |

単位: cm

第4表 円筒系埴輪観察表(1)

| 番号 | 種類 | 部位 | 出土地点 | 法量 | 形態・技法の特徴 | 備考 |
|----|----|-----------|------|--|--|--------------------------------------|
| 24 | 馬 | 四肢部 体部 | SX01 | 凸面 34.1 凹面 34.2 内面 25.1 | 凸面 台形。 凹面 左上がりの指ナギ。凸面付近ヨコナデ。 内面 タテナデ。馬頭部分のユビオサル。口鼻部附近ヨコナデ。 体部第2段に内部の透かし孔あり。 | 胎土 やや粗 焼成 やや不良 色調 棕色 下部は淡褐色 |

単位: cm

第5表 円筒系埴輪観察表(2)

| 番号 | 種類 | 部位 | 出土地点 | 器厚 | 形態・技法の特徴 | 備考 |
|----|--------|------------|--------------|------|--|---|
| 25 | 朝 瓦 | 体部 | SX01 | 22.8 | 体部径 凸帯 M字形。 外面 左上がりのハケ (8条/1cm)。テナ。 内面 ニビオサエ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 棕色 |
| 26 | 円 瓦 | 口縁上 り3段 | SX01 | 10.5 | 口縁 凸帯 M字形。 22.4 外面 左上がりのハケ (10条/23mm)。 残存高 凸帯付近、ヨコナダ。 27.5 内面 ニビオサエ。底部付近左上がりの指ナデ。 凸帯幅 第2段に円形のスカシ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 27 | 円 瓦 | 口縁上 り2段 | SX01 | 20.5 | 口縁 凸帯 M字形。 21.5 外面 左上がりのハケ (9条/1cm)。 残存高 凸帯付近、口縁付近ヨコナダ。 20.5 内面 ニビオサエ。 凸帯幅 第2段に円形のスカシ。 20.0 | 胎土 密 焼成 良好 色調 外面 淡黄褐色 内面 灰白色 断面 黄灰色 |
| 28 | 円 瓦 | 口縁上 り2段 | SX01 I区洗路 | 12.9 | 口縁 凸帯 やや浅いM字形。 22.9 外面 不明。 残存高 内面 ニビオサエ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 浅黄色 |
| 29 | 円 瓦 | 底部 付近 | SX01 I区洗路 | 最大径 | 凸帯 断続ナデ技法。 | 胎土 密 |
| 30 | 円 瓦 | 底部 付近 | SX01 | 18.4 | 22.8 外面 ヨコナダ。 外面 左上がりのハケ。 内面 ニビオサエ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 浅黄褐色 |

単位: cm

第6表 円筒系埴輪片観察表(1)

| 番号 | 種類 | 部位 | 出土地点 | 器厚 | 形態・技法の特徴 | 備考 |
|----|--------|--------|------|------|--|-----------------------------|
| 31 | 輪 瓦 | 口 縁 | SX01 | 1.0 | 外面 ナデ。 内面 ナデ。 | 胎土 やや粗 焼成 やや不良 色調 棕色 |
| 32 | 輪 瓦 | 口 縁 | SX01 | 0.95 | 外曲 ヨコナダ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 33 | 輪 瓦 | 口 縁 | SX01 | 0.9 | 外面 左上がりのハケ。端部付近ヨコナダ。 | 胎土 密 焼成 やや不良 色調 棕色 |
| 34 | 輪 瓦 | 裏 部 | I区 | 1.4 | 外面 ヨコナダ。 | 胎土 密 焼成 やや不良 色調 うすい褐色 |
| 35 | 輪 瓦 | 体 部 | I区洗路 | 1.2 | 凸帯 台形。 外曲 ヨコナダ。 | 胎土 やや粗 焼成 やや不良 色調 棕色 |
| 36 | 輪 瓦 | 体 部 | | 1.35 | 凸帯 台形。 外曲 ヨコナダ。 | 胎土 やや粗 焼成 やや不良 色調 棕色 |
| 37 | 輪 瓦 | 体 部 | SX01 | 1.2 | 凸帯 M字形。 外曲 左上がりのハケ。ヨコナダ。 内面 ニビオサエ。 | 胎土 密 焼成 やや良 色調 淡黄色 |

単位: cm

第7表 円筒系埴輪片観察表(2)

| 番号 | 種類 | 部位 | 出土地点 | 器厚 | 形態・技法の特徴 | 備考 |
|----|----|----|------|------|--|-------------------------------|
| 38 | 輪 | 底部 | SX01 | 1.3 | 内面 ハビナゲ。 | 粘土 密 焼成 やや良好 色調 橙色 |
| 39 | 円筒 | 口縁 | SX01 | 1.0 | 凸唇 M字形。 外側 端部付近ユビオサニ。 内側 ユビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 40 | 円筒 | 口縁 | I区流路 | 1.0 | 外側 左上がりのハケ。端部付近ヨコナゲ。 内側 削め方向のハケ。端部付近ヨコナゲ。 | 胎土 密 焼成 良好(須造質) 色調 浅黄褐色 |
| 41 | 円筒 | 口縁 | SX01 | 0.75 | 外側 ヨコナゲ。 内側 ユビオサニ。 | 胎土 粗 焼成 やや良好 色調 灰白色 |
| 42 | 円筒 | 口縁 | SX01 | 0.9 | 外側 ヨコナゲ。 内側 ユビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 43 | 円筒 | 口縁 | SX01 | 1.1 | 外側 ユビナゲ。ユビオサニ。 内側 ダテナゲ。端部付近ヨコナゲ。 | 胎土 密 焼成 やや不良 色調 浅黄褐色 |
| 44 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.4 | 凸唇 台形。 外側 ヨコナゲ。 内側 ユビオサニ。 | 胎土 粗 焼成 良好 色調 明赤褐色 |
| 45 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.2 | 内面 台形。 外側 左上がりのハケ。ヨコナゲ。 内面 ユビオサニ。 | 胎土 密 焼成 やや良 色調 明赤褐色 |
| 46 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.25 | 凸唇 台形。 外側 ヨコナゲ。 内側 ユビオサニ。 | 胎土 中等密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 47 | 円筒 | 体部 | SX01 | 0.9 | 凸唇 M字形。 外側 ヨコナゲ。 内側 ユビナゲ。 | 胎土 粗 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 48 | 円筒 | 体部 | SX01 | 0.95 | 凸唇 強いM字形。 外側 ヨコナゲ。 内面 ユビオサニ。 | 胎土 中等粗 焼成 良好 色調 灰白色 |
| 49 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.2 | 凸唇 M字形。 外側 左上がりハケ。ヨコナゲ。 内面 ユビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 50 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.1 | 凸唇 やや強いM字形。 外側 ヨコナゲ。 内面 ユビナゲ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 51 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.1 | 凸唇 M字形。 外側 ヨコナゲ。 内面 ユビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 52 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.1 | 凸唇 台形。 外側 ヨコナゲ。 内面 ユビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |
| 53 | 円筒 | 体部 | I区 | 1.1 | 凸唇 台形。 外側 ヨコナゲ。 内面 ユビオサニ。ユビナゲ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 淡黄色 |
| 54 | 円筒 | 体部 | I区 | 1.1 | 凸唇 台形。 外側 ヨコナゲ。 内面 ユビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 浅黄褐色 |

単位はcm

第8表 円筒系埴輪片觀察表(3)

| 番号 | 種類 | 部位 | 出土地点 | 器厚 | 形態・技法の特徴 | 備考 |
|----|----|----|------|------|---|----------------------------|
| 55 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.1 | 凸唇 台形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 56 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.1 | 凸唇 やや浅いM字形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 やや密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 57 | 円筒 | 体部 | SX01 | 0.9 | 凸唇 台形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 58 | 円筒 | 体部 | I区塗路 | 1.0 | 凸唇 M字形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 やや密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 59 | 円筒 | 体部 | SX01 | 0.9 | 凸唇 M字形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 60 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.0 | 凸唇 台形。 外面 左上がりのハケ(8条/1cm)。ヨコナデ。 内面 右上がりのナデ、ユビオサエ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 淡黄褐色 |
| 61 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.2 | 凸唇 台形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビナデ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 淡黄褐色 |
| 62 | 円筒 | 体部 | SX01 | 0.9 | 凸唇 台形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビナデ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 淡黄褐色 |
| 63 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.15 | 凸唇 台形。 外面 左上がりのハケ。ヨコナデ。 内面 ユビナデ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 淡黄褐色 |
| 64 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.05 | 凸唇 台形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 やや粗 焼成 やや良好 色調 棕色 |
| 65 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.2 | 凸唇 台形。 外面 左上がりハケ。ヨコナデ。 | 胎土 やや粗 焼成 やや良好 色調 棕色 |
| 66 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.2 | 凸唇 台形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 やや粗 焼成 やや良好 色調 棕色 |
| 67 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.3 | 凸唇 やや浅いM字形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 棕色 |
| 68 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.3 | 凸唇 台形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビナデ。 | 胎土 やや密 焼成 やや良好 色調 棕色 |
| 69 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.2 | 凸唇 やや浅いM字形。 外面 左上がりハケ。ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 灰白色 |
| 70 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.15 | 凸唇 やや浅いM字形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビオサエ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 71 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.0 | 凸唇 M字形。 外面 ヨコナデ。 内面 ユビナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |

単位:1cm

第9表 円筒系埴輪片観察表(4)

| 番号 | 種類 | 部位 | 出土地点 | 器厚 | 形態・技法の特徴 | 備考 |
|----|----|----|------|------|--|---------------------------------|
| 72 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.1 | 凸面 M字形。 外面 左上がりハケ (10条/1cm)。ヨコナデ。 内面 ヨビナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 (須恵質) 色調 灰白色 |
| 73 | 円筒 | 体部 | | 1.05 | 凸面 M字形。 外面 左上がりハケ (9条/1cm)。ヨコナデ。 内面 ヨビナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 (須恵質) 色調 淡黄色 |
| 74 | 円筒 | 体部 | I区 | 1.0 | 凸面 M字形。 外面 左上がりハケ (12条/1cm)。ヨコナデ。 内面 ヨビナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 (須恵質) 色調 灰白色 |
| 75 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.25 | 凸面 断続ナデ技法。 外面 ヨビナデ。ヨビオサニ。 内面 ヨビナデ。ヨビオサニ。 | 胎土 密 焼成 やや密 色調 やや良好 |
| 76 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.4 | 凸面 断続ナデ技法。 外面 左上がりのハケ (9条/1cm)。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 灰白色 |
| 77 | 円筒 | 体部 | SX01 | 1.2 | 凸面 断続ナデ技法。 外面 小崩。 内面 ヨビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄色 |
| 78 | 円筒 | 体部 | I区虎跡 | 1.3 | 凸面 断続ナデ技法。 外面 大上りのハケ (6条/1cm)。 内面 ヨビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 (須恵質) 色調 にい赤褐色 |
| 79 | 円筒 | 底部 | SX01 | 1.25 | 外面 ナデ。 内面 ヨビオサニ。 | 胎土 密 焼成 やや良好 色調 浅黄褐色 |

単位はcm

第10表 包含層出土遺物観察表(1)

| 番号 | 器種 | 地点・層位 | 法量 | 形態の特徴 | 技法の特徴 | 備考 |
|----|---------|-----------|-------------------------|---------------------------------------|----------|---------------------------|
| 80 | 瓦器 柄 | | 口径 14.4 器高 3.8 | 口縁部は内凹しつつ立ち上がり、端部 附近でわざかに外反する。歪み大。 | 外面ヨビオサニ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 灰色 |
| 81 | 瓦 | I区虎跡 | 口径 10.6 器高 1.2 | 口縁部は外反しつつ立ち上がる。 | ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 棕色 |
| 82 | 瓦 | I区虎跡 | 口径 10.6 器高 1.2 | 口縁部は外反しつつ立ち上がる。 | ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 棕色 |
| 83 | 瓦 | I区東 I区 | 口径 18.7 器高 2.0 | 口縁部は外反しつつ立ち上がる。 | ナデ。 | 胎土 密 焼成 にい赤褐色 色調 棕色 |
| 84 | 杯 | | 口径 13.9 器高 2.5 | 口縁部は外反しつつ立ち上がる。 | ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 淡黄褐色 |
| 85 | 杯 | I区東 | 口径 12.4 器高 3.0 | 口縁部は内凹しつつ立ち上がり、端部 附近で外反する。 | ナデ。 | 胎土 密 焼成 良好 色調 棕色 |

単位はcm

第11表 包含層出土遺物觀察表(2)

| 番号 | 器種 | 地点・層位 | 生量 | 形態の特徴 | 技法の特徴 | 備考 |
|----|----|---------|---------------------------|--|--|----------------------------|
| 86 | 高杯 | Ⅱ区東 | 我存高 7.9 脚部厚 11.6 | 脚部は直線状に下り、端部付近で大きく外方へ開く。 | ナデ。 | 胎土 やや粗 焼成 やや不良 色調 棕色 |
| 87 | 盤 | I区南トレンチ | 口径 26.8 器高 2.3 | 口縁部は外反弧形に立ち上がり、端部付近で小さく内凹する。 | ナデ。 | 胎土 粗 焼成 良好 色調 ぶい桜色 |
| 88 | 鍋 | Ⅲ区 | 口径 32.0 残存高 2.8 | 口縁部は体部より「く」の字状に膨らんで立ち上がり、端部付近で外方に新月形の稜をついた端部に平らな三角形の縫をつくった端部に平らな三角形の縫をつくった端部に平らな | 口縁部外側ナデ。 内面ヨコハケ。 体部 外壁粗いタテハケ。 内面滑いタテハケ。 | 胎土 粗 焼成 良好 色調 淡褐色 |
| 89 | 鍋 | I区 | 口径 31.0 残存高 3.9 | 口縁部は体部より「く」の字状に膨らんで外反弧形に立ち上がる。 | 体部内面ヨコハケ。 他はナデ。 | 胎土 やや密 焼成 良好 色調 淡褐色 |
| 90 | 鍋 | Ⅲ区 | 口径 34.2 残存高 3.4 | 口縁部は体部より「く」の字状に膨らんで立ち上がり、端部付近で外方へ垂らす。 外間にすす付着。 | 体部内面ヨコハケ。 他はナデ。 | 胎土 粗 焼成 良好 色調 ぶい桜色 |
| 91 | 釜 | | 口径 33.8 残存高 3.9 | 口縁部は内面しつつ立ち上がる。外上方へ延びる路を有する。 | 体部外側ニビオサエ。 | 胎土 やや粗 焼成 良好 色調 棕色 |

单位：售

第12表 包含層出土遺物計測表(1)

| 番号 | 分類 | 出土地点 | 全長 | 上径 | | 下径 | | 上孔径 | 下孔径 | 重量 | 材質 | 穿孔方向 | 色調 |
|----|----|------|-------|-------|-------|------|------|------|-----|----|------|------|----|
| | | | | 横 | 高 | 横 | 高 | | | | | | |
| 92 | 菅玉 | 裴探 | 30.20 | 11.70 | 11.25 | 3.80 | 1.45 | 7.56 | 鐵 | 下 | 片面穿孔 | みるいろ | |

单位：兆瓦时，容量：

第13表 包含層出土遺物件數表(2)

| 番号 | 品種 | 出土地点 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 備考 |
|----|----|------|------|------|------|------|-------|
| 98 | 石罐 | 表層 | 3.60 | 2.30 | 0.60 | 3.96 | 先端部欠損 |

單位：民吉里，新莊

写 真 図 版

図版 1



調査前風景



試掘トレンチ土層断面

図版 2



S X 0 1 検出状況



S X 0 1 遺物出土状況(1)

図版 3



S X 0 1 遺物出土状況(2)



S X 0 1 遺物出土状況(3)

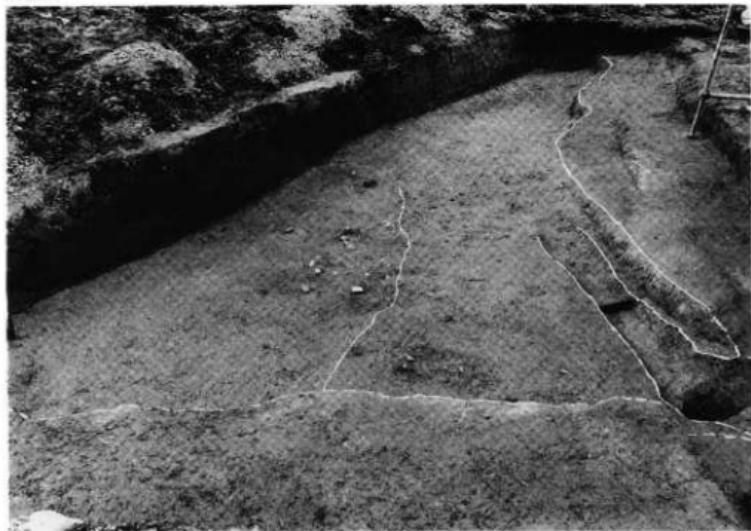


S X 0 1 遺物出土状況(4)

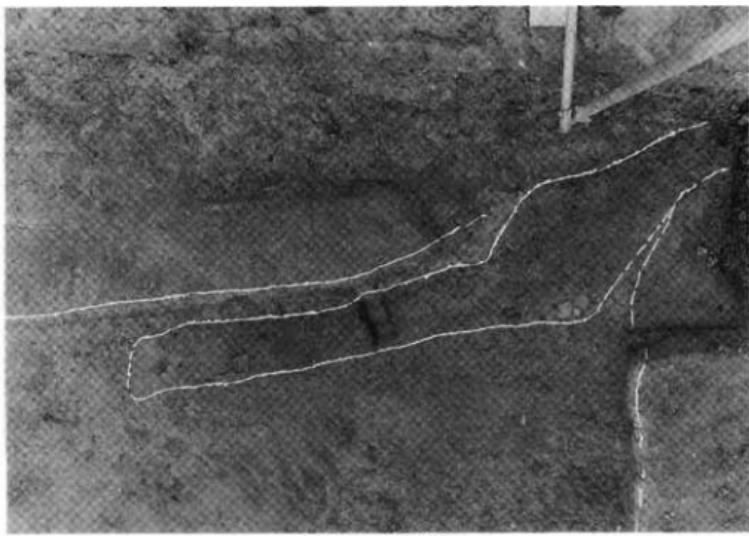


S X 0 1 遺物出土状況(5)

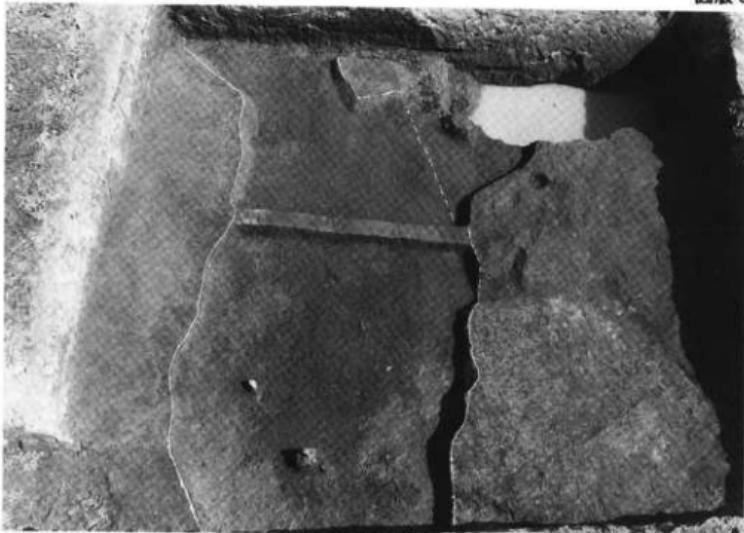
图版 5



SX01全景



SX01清绘出状况



I区流路検出状況

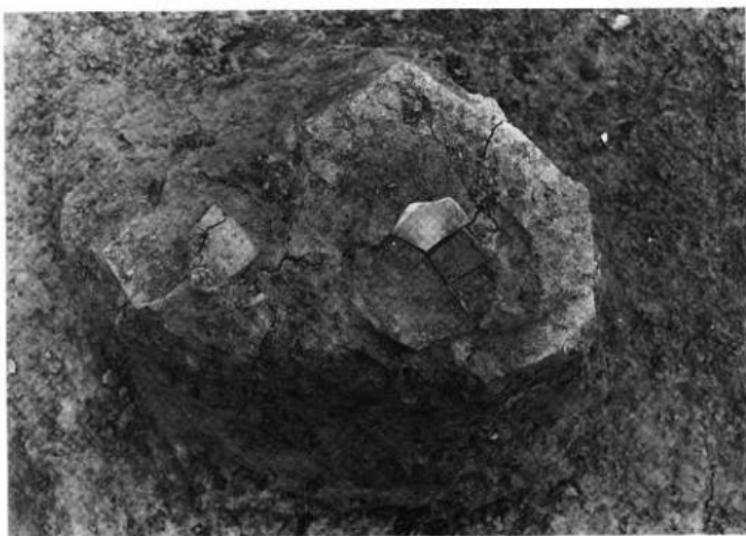


II区流路検出状況

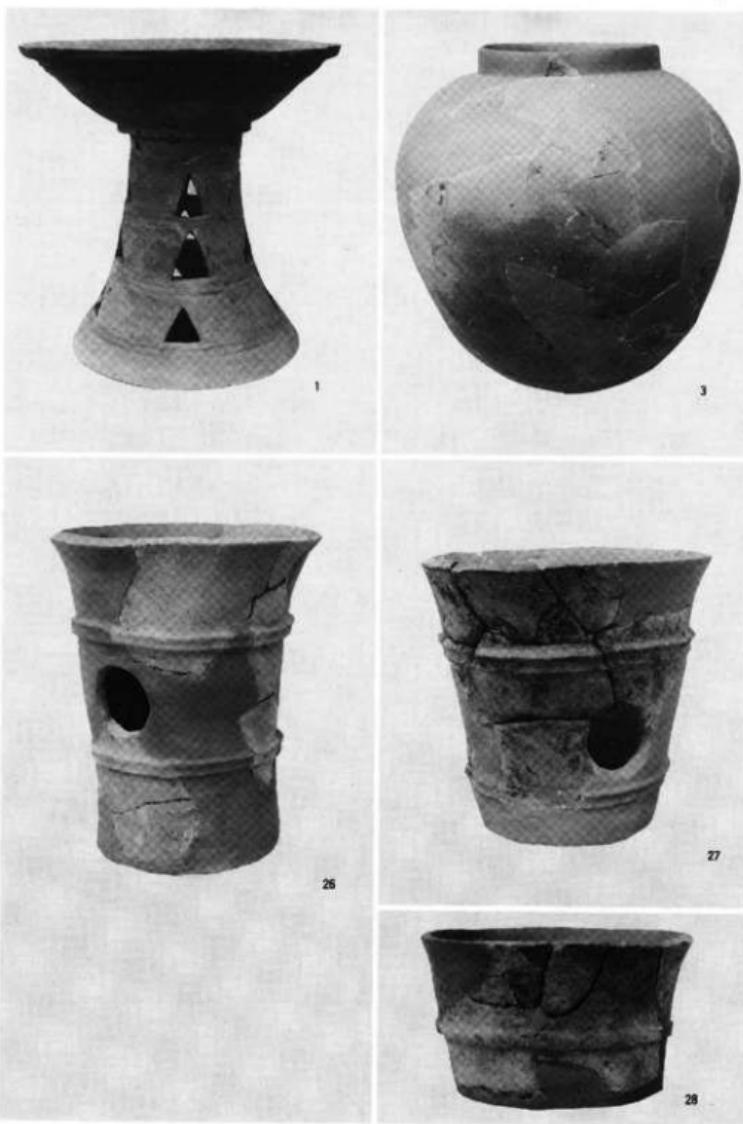
図版 7



SK 01 検出状況

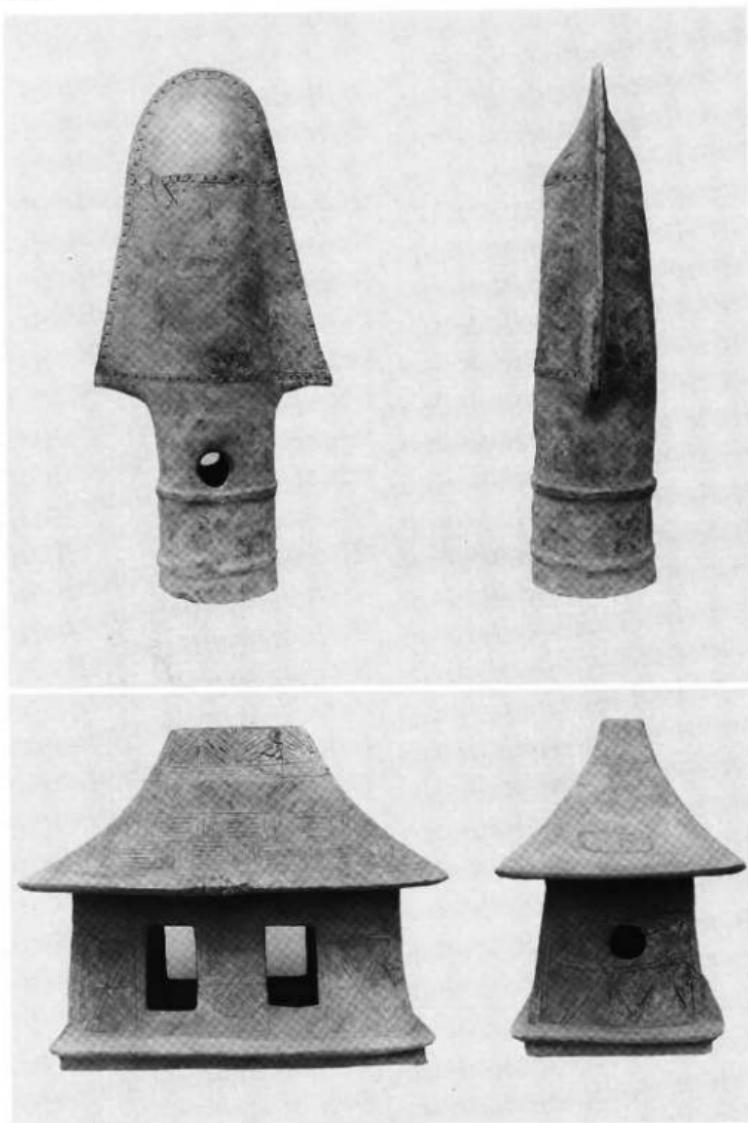


SK 01 遺物出土状況

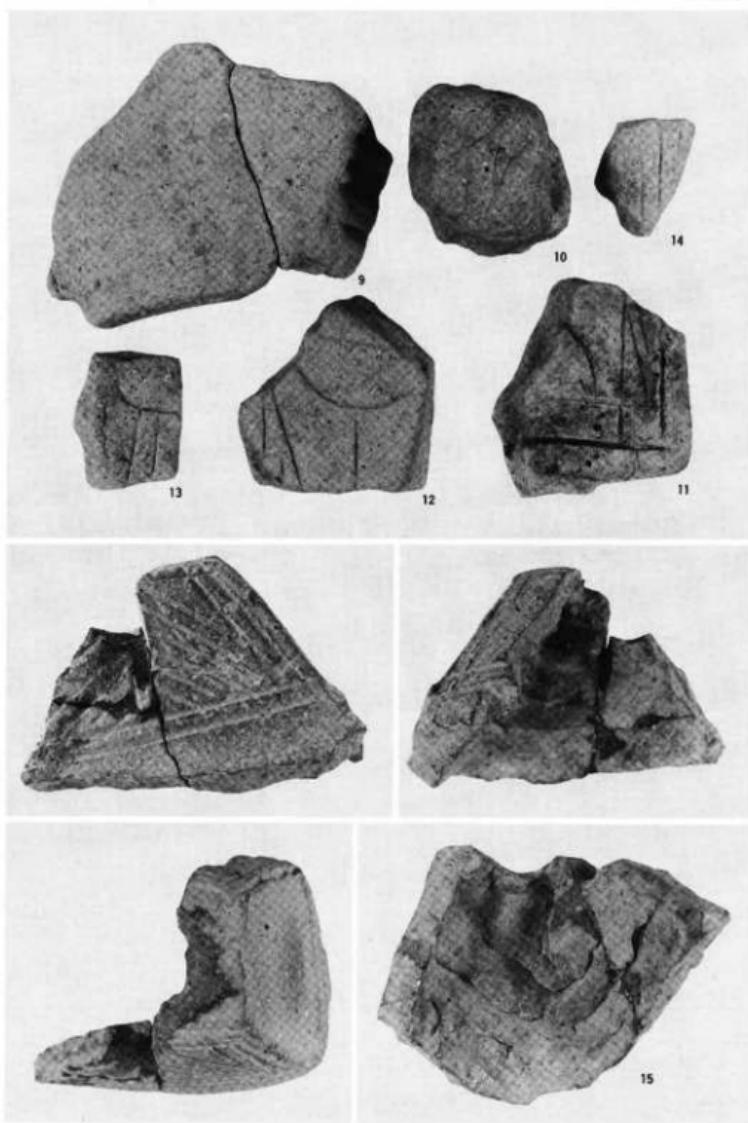


S X 0 1 出土遺物(1)

図版 9

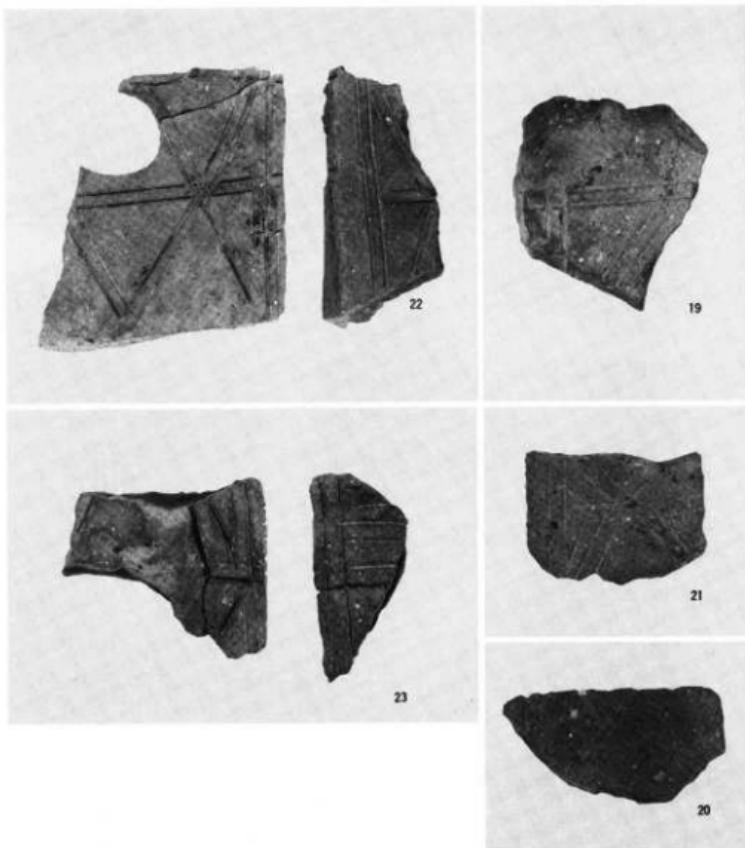


S X 01 出土遺物(2)



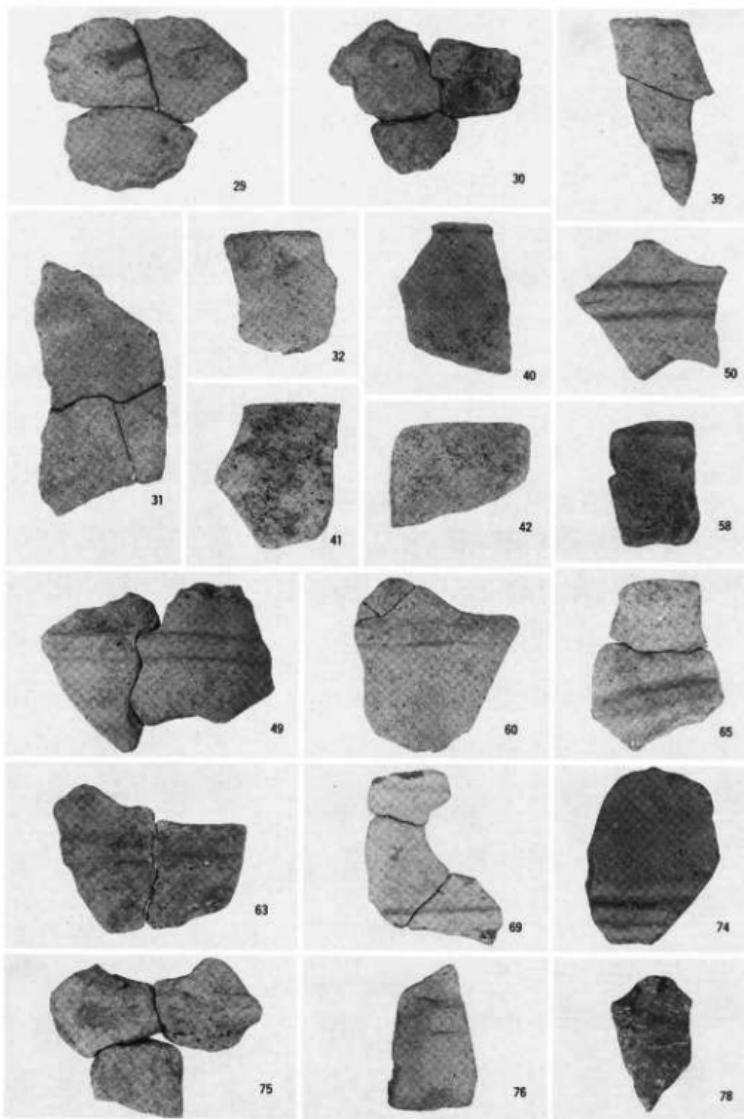
盾形埴輪②・家形埴輪片(1)

圖版11



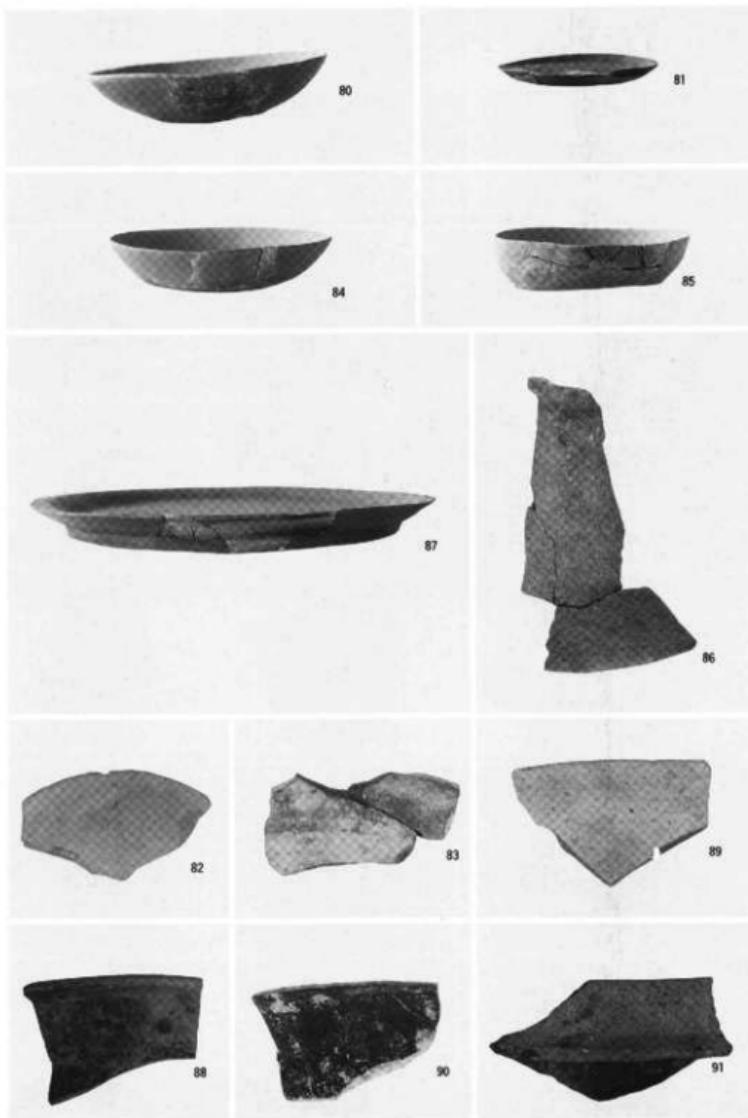
家形埴輪片(2)

図版12



円筒系埴輪片

図版13



包含層出土遺物

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第4集

四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 4

発行日 平成6年3月31日

編 集 財團法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-01 徳島県板野郡板野町川端字岡ノ本25番
TEL (0886)72-4545

発 行 徳島県教育委員会
財團法人 徳島県埋蔵文化財センター
日本道路公団

印 刷 徳島県印刷企業組合

四国縦貫自動車道建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告

4

蓮華谷古墳群（Ⅱ）

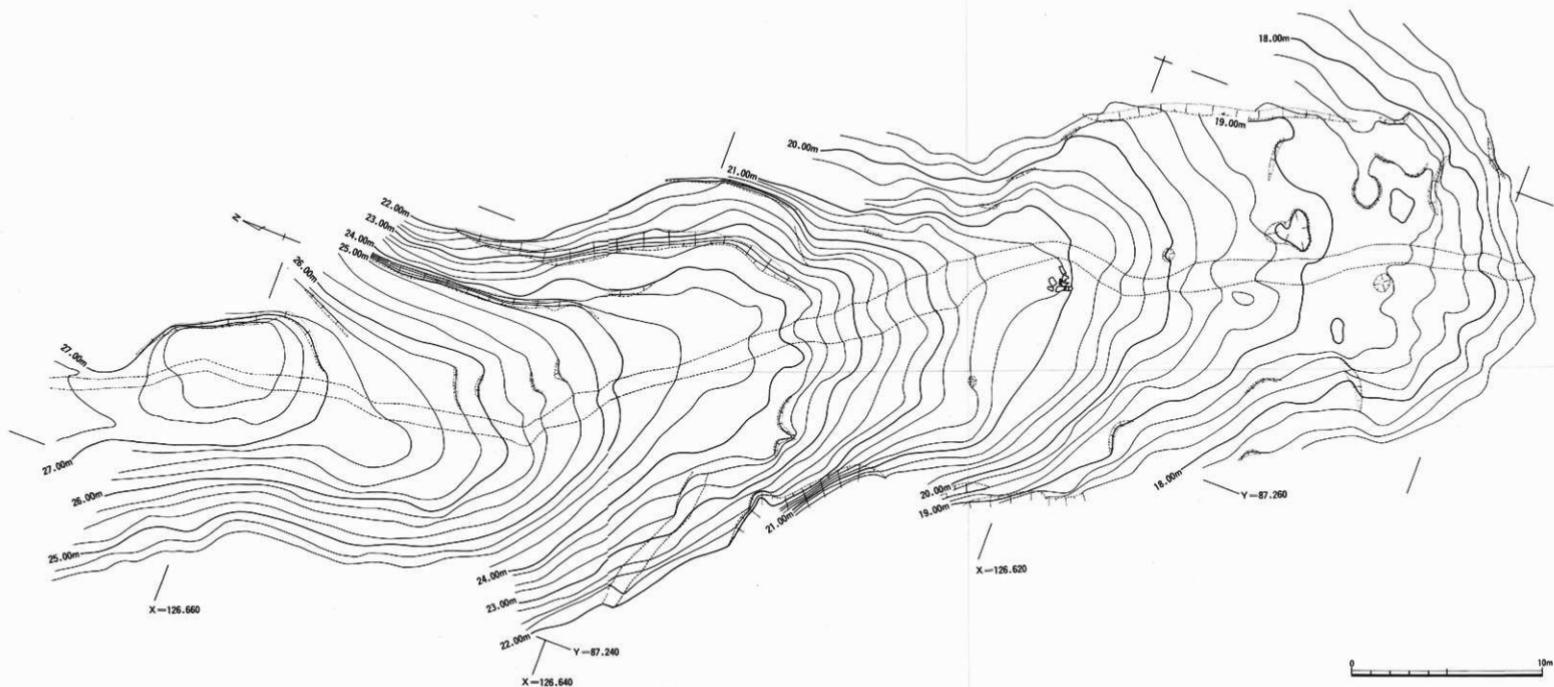
付図1 蓮華谷古墳群（Ⅱ）調査前地形測量図

付図2 蓮華谷古墳群（Ⅱ）地形測量図及び遺構配置図

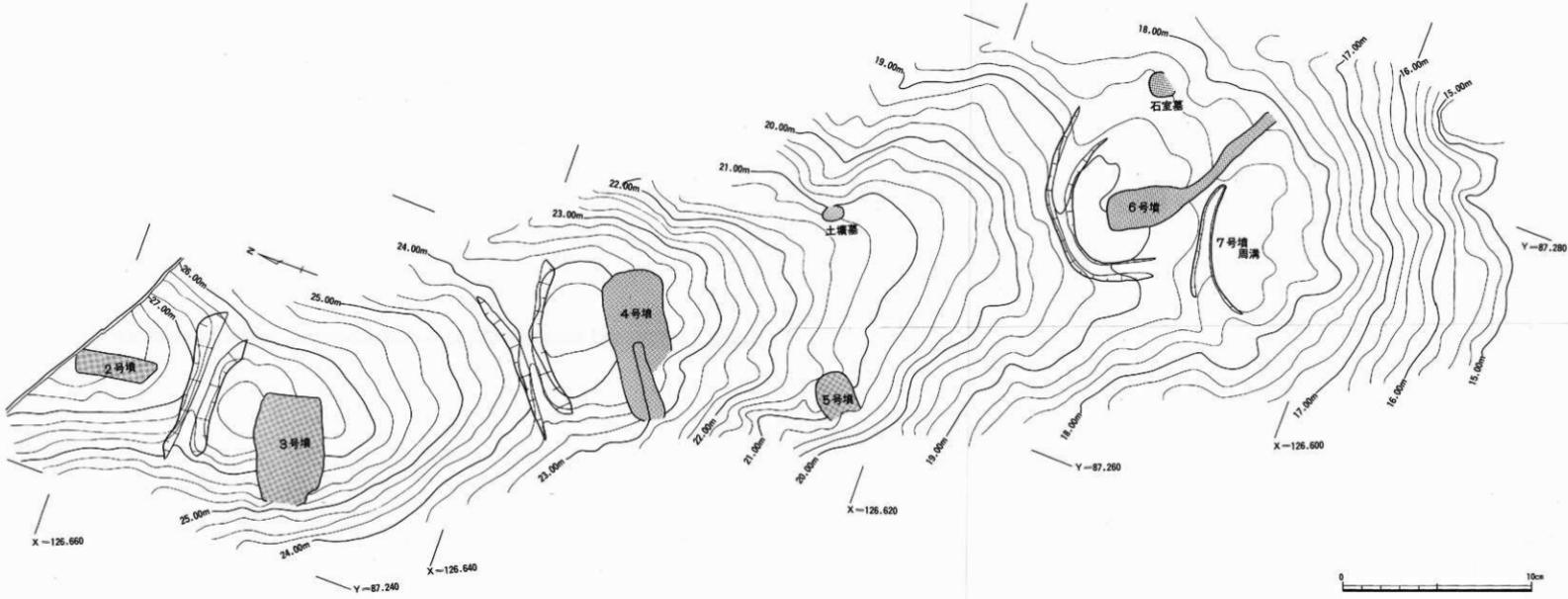
付図3 2号墳主体部実測図

付図4 3号墳石室実測図

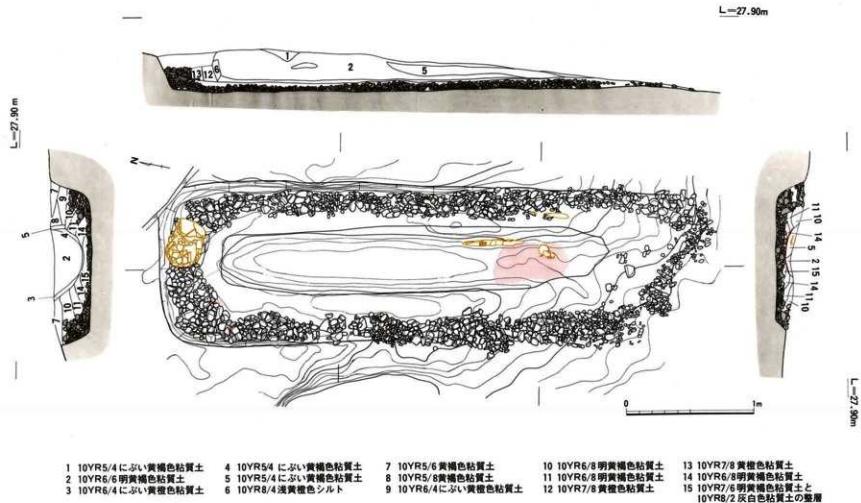
付図5 6号墳石室床面実測図



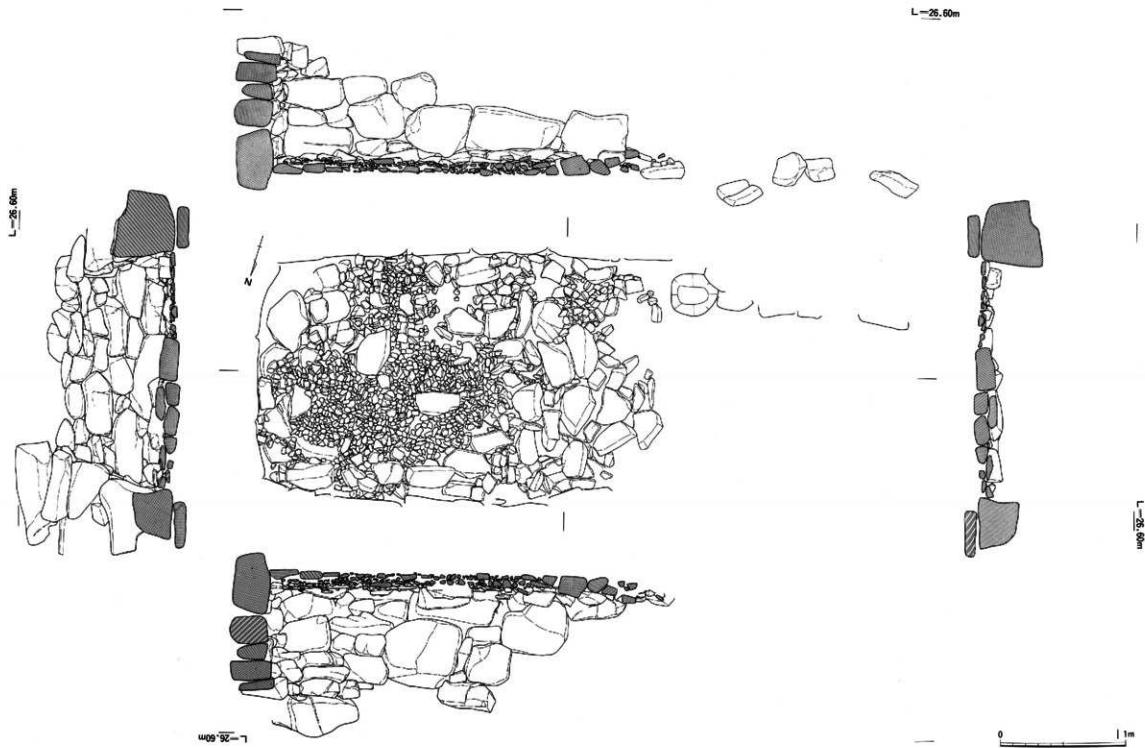
付図1 蓮華谷古墳群(Ⅱ)調査前地形測量図



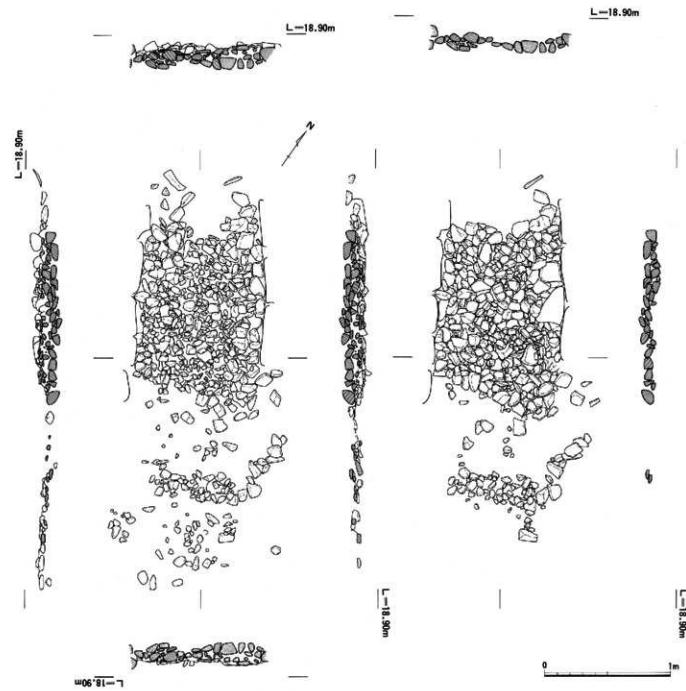
付図2 蓮華谷古墳群（II）地形測量図及び遺構配置図



付図3 2号墳主体部実測図



付图4 3号墳石室実測図



付图5 6号墳石室床面実測図